

# 病院訪問を通して

私たち笠松双葉幼稚園では、年に三回ほど病院訪問を行っています。年長児が病院を訪ね、おじいさん、おばあさんとのふれ合いを楽しみます。

病院では、子どもたちが童謡や季節の歌をプレゼントしています。また、簡単なゲームをしながら、おじいさん、おばあさんと握手をしたりもします。

「おじいさんの手、大きくてしわがいっぱいだったよ。」と、子どもたちも嬉しそうに話をしてくれます。

その後は、おじいさん、おばあさんと一緒に昼食をいただきます。



笠松町道徳教育連絡会議

ます。初めは慣れない環境のなか、照れくさそうにしています。おじいさんたちに食事のマ



ナーを教えてもらったり、優しく話しかけられ会話も増えていきます。

近年、核家族化にともない、子どもたちはおじいさん、おばあさんと過ごすことが少なくなりました。おじいさん、おばあさんとのふれ合いは、子どもたちにとって大切なことです。おじいさんたちとのふれ合いを通して、子どもたちの優しさを育みます。

また様々な教えは、子どもたちの心の成長に大きな影響を与えるものだと思います。

病院訪問は一日のみで、長い時間を過ごすことはできません。訪問を終えて幼稚園に戻るバスの中で子どもたちは、とてもいい表情をしています。おじいさん、おばあさんからももらった笑顔、優しさに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、たくさんの方とふれ合い、子どもたちの心の成長につなげていきたいと考えています。

笠松双葉幼稚園

主任 森川貴代美



教育委員会  
だより

## スポーツで健康づくり

スポーツ大好き人間になろう！

体力には、走る・跳ぶ・投げるという運動の基礎となる身体的能力(行動体力)と、体温調節や病気に対する免疫力、ストレスに反応するなどの身体的能力(防衛体力)があると考えられています。これらは、心と体の健やかな発達に欠かせないものです。近年、子どもたちの体力は低下傾向にあり心配する所です。それは、子どもの体力低下は、将来的に国民全体の体力低下となり、ストレスに対する抵抗力の低下や生活習慣病の増加など健康に対する不安を抱える人が増え、ひいては社会全体の活力が失われていくことにつながります。

現在、学校での子どもに、朝礼中に傾いたり朝から机に伏せる姿が多く見られ、数値化できていないが明らかに以前とは違う状況が見られます。家庭においても、食事の偏りや睡眠時間の減少など基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが増加していると言われています。子どもから大人まで、スポーツ活動をライフワークに積極的に取り入れたいものです。

人間の根源的な欲求を満たすと共に、爽快感や達成感、他人との連帯感などの精神的な充実につながり、自己責任、克己心やフェアプレイ精神などを培います。更に、体力の向上や精神的なストレスの解消、生活習慣病の予防など心と体の健やかな発達に資するものです。しかし、高齢化の進展や生活の利便性の向上は「体を動かす」機会の減少につながることが予想されます。よって、生涯にわたるスポーツに親しむことができ、ライフワークを選択することは、とても大きな意義があると言えます。

スポーツは、人間の可能性の極限を追究する営みという意義も有していて競技スポーツに打ち込む選手のみならず、是非、スポーツへの関心を高め、夢や感動を与えてくれます。子どもたちの時からスポーツを通じた心と体作りを意識したいですね。

「人生八十年時代」を迎え、人生をいかに充実したものにしていくかが課題となります。今、スポーツ活動を含めた新たな生き方や考え方の構築が求められています。